



兵庫県立加古川東高等学校



加古川東高等学校校歌

富田 碎花 作詞

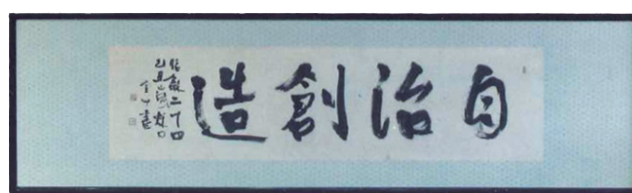
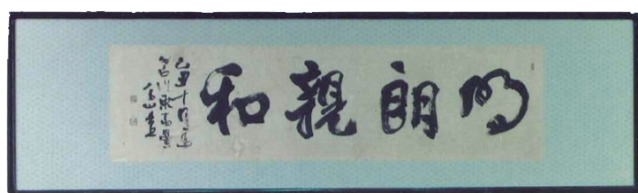
須藤 五郎 作曲

一、いざ見よ

行く手輝く日の柱
久遠の光に瞳をひらき
自治創造の力一つに
希望の鐘高らかに
うち鳴らせ
光はつねに東より
ああ我等加古川東高校

二、いざ聞け

加古の水行く瀬々の音
絶えざる流れに思いを潜め
親しみとする心一つに
希望の鐘高らかに
うち鳴らせ
光はつねに東より
ああ我等加古川東高校



目 次

県知事のことば	5
教育長のことば	6
学校長のことば	7
実行委員長のことば PTA 会長のことば	8
後援会長のことば 生徒会長のことば	9
歴代校長	10～11
100 周年記念事業について	12～13
創立 100 周年特別企画①	14～15
創立 100 周年特別企画②	16～17
校歌・応援歌	18～21
編集後記	22



高校校旗



中学校校旗

お祝いのことば



創立 100 周年を祝して

兵庫県知事 斎藤 元彦

兵庫県立加古川東高等学校が創立 100 周年という大きな節目を迎えたことを、心からお喜び申し上げます。

本校は、大正 13 年に県立加古川中学校として開校しました。昭和 23 年の学制改革に伴い県立加古川東高等学校と改称し、現在に至っています。

この間、「自治創造」「明朗親和」の校訓のもと、各界のリーダーとして活躍する多くの人材を輩出し、県内はもとより全国的にも高い評価を得ています。創立以来、3 万人を超える生徒たちを温かく見守り、導いてこられた歴代校長、教職員をはじめ、保護者、同窓生、そして地域の皆様に深く敬意と感謝の意を表します。

本校の強みは、なんといっても伝統ある理数教育と、新たな STEAM 教育の実践です。なかでも理数教育は昭和 61 年の理数コース設置以来の実績を誇り、文部科学省が推進するスーパーサイエンスハイスクール事業の指定校として、科学的な探究活動を軸としたカリキュラム開発で数々の成果を収めています。また、SDGs の開発目標や自然・社会・人文科学の各分野をテーマとした探究活動を各学年で実施しています。

STEAM 教育では、令和 2 年度に「兵庫型 STEAM 教育」モデル校に選ばれ、魅力的な特別講座の開催を通じて生徒の主体的な学びを後押ししてきました。その成果として、内閣府の政策コンテストや県が実施する「スタートアップチャレンジ甲子園」等でも優秀な成績を収められるなど、生徒の皆さんの活躍には目を見張るものがあります。

さて、私たちはいま、歴史的な変化の時代を生きています。混迷を深める世界情勢のなか、地球規模の気候変動や大規模な自然災害のリスクとも向き合わなければなりません。一方では生成 AI や次世代モビリティなどの技術革新が人々の暮らしを大きく変えようとしており、これから社会に出ようとする若い世代の皆さんは、予測が難しい不確実な世界へと、果敢に挑んでいかなければなりません。

加えて、わが国は避けることのできない人口減少社会を迎えています。今後、すぐに人口が増加に転じることはないという現実を真正面から受け止め、人口減少時代にふさわしい社会のあり方を大胆にデザインし、行動を起こさなければなりません。

県では、人口が減る時代だからこそ、一人ひとりの「個」の力を大切にする社会づくりが大切だと考えています。そのためには、未来を担う若者たちが将来への不安を感じることなく、安心して、それぞれの夢や目標に挑戦できる環境づくりが重要であり、県立学校施設の環境改善や部活動への支援、グローバルリーダーの育成、奨学金返済支援制度の拡充をはじめとする若者・Z 世代への支援を集中的に展開しているところです。

このようななか、加古川東高等学校 100 年の伝統と理念を受け継いだ若い皆さんが、新時代の担い手として力強く羽ばたいていかれることを願ってやみません。

最後に、本校の益々の発展と、卒業生、在校生をはじめ、関係の皆様のご健勝とご活躍を心からお祈りし、祝辞といたします。



創立 100 周年に寄せて

兵庫県教育長 藤 原 俊 平

兵庫県立加古川東高等学校が、創立 100 周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。本校は、大正 13 年に、「質実剛健・自治創造」を校訓・生徒綱領とした兵庫県立加古川中学校として設立しました。昭和 23 年に新制高等学校に移行し、兵庫県立加古川東高等学校と改称された後、校訓は「自治創造・明朗親和」となりましたが、「自治創造」は一貫して重んじられており、生徒会を中心として企画・運営される文化部発表会や体育祭をはじめとした諸行事、ホームルーム活動などで、この伝統は結実し、受け継がれています。

創立以来、本校は、時代の要請や地域の期待に応える地域の高等学校としての役割を果たし、これまで 3 万人もの有為な人材を輩出しています。これもひとえに、生徒一人一人の努力と、歴代校長をはじめ教職員、保護者、同窓会、地域の皆様方の御尽力の賜物であると深く敬意を表すとともに、感謝申し上げます。

現代は、国際情勢の不安定化やグローバル化、ICT や AI 等の技術革新の進展など、変化の激しい時代にありますが、子どもたち一人一人が、自ら「在りたい自分」や「在りたい社会」をしっかりと描き、自己のみではなく主体的に他者と協力・協働しながら、その実現に向けた課題を発見し、解決に向け、新たな価値を創造していく力を育成していくことが求められています。兵庫県教育委員会では、今年度、第 4 期「ひょうご教育創造プラン」をスタートさせ、重点テーマである「『絆』を深め、『在りたい未来』を創造する力の育成」に向け、兵庫らしい教育を推進しています。

このような中、本校は、「正解のない未来を切り拓く人づくり」をビジョンとして掲げ、国際的な視野を持って世界で活躍できる生徒の育成に取り組んできました。

平成 18 年度にはスーパーサイエンスハイスクールの指定を受け、平成 22 年度に設置した理数科では、問いを立て、問いに答えるプロセスに取り組む「課題研究Ⅰ」や、生成 AI から経済まで幅広く学ぶ「イノベーション基礎」などの特色あるカリキュラムを展開し、さらに、「3D プリンタ体験教室」や「起業家セミナー」などの STEAM 特別講座に取り組み、問題解決能力を育成する実践的な学びを進めています。

また、学校行事、クラス討論を行う人権ホームルーム、探究学習などの多彩な取組によって、集団を動かす「人間的魅力」、新しいことに「挑戦する勇氣」、課題を解決するための「構想力」を養うことで、他者と協働しつつ課題解決に向けて行動・発信できるリーダーの育成に努めています。

さらに、住民が参画する PTCA に S (Student : 生徒) を加えた PTCSA 活動などを通じて地域や学校の課題等に関する意見交換を行い、より良い環境づくりにも取り組んでいます。

このように、地域に開かれた学校として、時代とともに常に新たな教育を推進する本校は、保護者をはじめ地域の方々からも高い評価と厚い信頼を得ており、誠に心強い限りです。

兵庫県立加古川東高等学校が、この記念すべき創立 100 周年を契機として、さらに地域に根ざしつつ、国内外を舞台にさまざまな分野で貢献できる数多くの人材を育成し、新たな歴史の地平を切り拓かれることを心より祈念します。



創立 100 周年を迎えて

校長 新 谷 浩 一

兵庫県立加古川東高等学校が歳月を積み重ね、今年創立 100 周年という大きな節目の年を迎えることとなりましたことは無上の喜びです。これもひとえに卒業生ひとりひとりのご努力と、歴代校長をはじめとする教職員、同窓会、PTA、後援会、そして何よりも地域の皆様方のご尽力とご支援の賜物であると深く感謝申し上げます。

本校は大正 13 年に、当時の加古郡・印南郡の方々の強い願いと努力により、この粟津の地に旧制の加古川中学校として創設されました。その後、昭和 23 年の学制改革による名称変更を経て、加古川東高等学校と名称変更されました。以来、本校から飛び立って行かれた卒業生が国内外のあらゆる分野で有為な人材として逞しく活躍されておられることは実に頼もしい限りです。

歴史を紐解けば、本校は創立以来「自治創造」、「明朗親和」の校訓に基づき、自己の良心と責任において、他者と協働しつつ課題解決に向けて行動・発信するリーダーを育成することを教育方針とし、勉学や課外活動において輝かしい実績を残してまいりました。

さらに近年は国の指定校事業であるスーパーサイエンスハイスクール事業や、STEAM 教育推進の取組とも連携した課題研究や探究などの教育活動を通して、様々な課題に対応するための問題解決能力の育成に取り組んでおり、その成果は県内のみならず全国的にも高い評価をされているところです。

ひとたび世界に目を向けるとグローバル化、技術革新の進展など、時代は激しく変化しています。また、多発する自然災害や地球温暖化、国際情勢の不安定化についても日々、報道がなされるなど、現代は解決しなければならない様々な課題に直面しています。

そこで本校では現在、教育ビジョンを『正解のない未来を切り拓く人材の育成』と掲げています。変化の激しい時代を生きるこれからの世代には想定外の事象とまっすぐに向き合い対応する力や、模範解答のない正解の解らない不透明な未来を自らの手で切り拓いていく力を身に付けることが不可欠であると思われるからです。

校歌に『光はつねに東より』という一節があります。生徒にとって自ら思い描く「理想の自分」に近づくために学ぶ場であるとともに、「理想の社会」を実現するための力を培う場で在り続けることで、本校が皆様方に信頼され愛される学校としてさらに光を放ち続けますよう、生徒・職員一同、精進をしていく所存でございます。今後とも、皆様方の変わらぬご指導とご支援をたまわりますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、この 100 周年記念事業を実施するにあたりご尽力をいただきました同窓会、PTA、後援会、実行委員の方々をはじめ、関係各位に心よりお礼を申し上げてご挨拶といたします。



祝辞 加古川東高校創立百周年

創立百周年記念事業実行委員会委員長

清流会会長 大 庫 隆 夫 (高 28 回)

母校加古川東高校が創立百周年を迎えること衷心よりお慶び申し上げます。

大正 13 年すなわち 1924 年に創立され一世紀が経ったわけであります。兵庫県下だけではなく今や全国にその名を轟かせる名門高校となりました。その卒業生総数は 3 万 2 千人を超え、各界で活躍する人材を多数輩出してきました。

一世紀の永きに渡り伝統を創り続け、生徒たちを教え導いてくださった諸先生方と関係各位の努力尽力に心より感謝を申し上げます。

百周年記念事業実行委員会は財務建築部会、式典部会と記念誌部会で構成してこの 3 年間活動が続けて参りました。委員各位のお陰で無事に式典当日を迎えることが出来ました。心より感謝を申し上げます。

百周年記念事業の柱事業は清流百周年記念館の建設寄贈であります。コロナ禍にもかかわらず総事業費 3 億円を多数の同窓各位、青松会、PTA、新旧学校職員各位、そして地元企業各社に御寄贈いただき、無事に竣工、学校(兵庫県)に寄贈することが出来ました。

これからの生徒たち、教職員、PTA、青松会、清流会皆様方に活用いただけることが何より嬉しく存じます。百周年をステップとして加古川東高校と同窓各位の益々のご隆盛ご発展を祈念して祝辞とさせていただきます。

P.S 50 年後 2074 年の清流会本部役員殿

この度竣工しました清流百周年記念館は頑丈な鉄骨造りですから、50 年後も鉄骨は使えるはず、痛んだところをやりかえて行くことで 150 周年を乗り切られんことを祈っています。



お祝いのことば

兵庫県立加古川東高等学校 PTA

令和 6 年度会長 松 本 正 直

この度は兵庫県立加古川東高等学校創立 100 周年、誠におめでとうございます。PTA を代表いたしまして、心よりお祝い申し上げます。

歴代の校長先生をはじめ、いつも熱心にご指導いただいております教職員の皆様、温かく見守ってくださる地域の皆様、そして、在校生および卒業生の皆様とご一緒に、この歴史の 1 ページをお祝いできることを大変嬉しく思います。

校長先生をはじめ、諸先生方におかれましては、激変する社会の中でご指導をいただき、そのご苦労は計り知れないものがあると存じます。私ども PTA 会員も保護者として、明るく温かい活動を実践し、微力ながらお力添えをさせていただきます。今後とも、末永くご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

あらためて 100 年という歳月を考えると、数多くの方々のたゆまぬ努力により、伝統が築き上げられていることを、ひしひしと感じている次第です。

この伝統を引き継ぎ、次世代へ粛々と継承してゆくことが、私どもの大切な役目であることを実感しております。

最後に、兵庫県立加古川東高等学校の益々のご発展をお祈りいたしまして、お祝いのメッセージとさせていただきます。



学び続ける旅の始まり

兵庫県立加古川東高等学校後援会

会長 芳 本 和 尚

この度、兵庫県立加古川東高等学校が創立 100 周年を迎え、記念誌を発刊されますことを心よりお祝い申し上げます。平素は、本後援会の活動に多大なるご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。本後援会では、校内外での課外活動や生徒指導、教育環境の改善・充実を目指し、東高生の未来を支援しております。

さて、本校は校訓「自治創造・明朗親和」を基に、知育・徳育・体育の調和を大切にし、個々の才能を伸ばす教育に力を入れています。特に大学進学や部活動での活躍は目覚ましく、全国レベルでの実績を重ねていることは、生徒の努力はもちろん関係各位による校内外での支援の賜物です。100 年の歴史を誇る本校は、これまでの教職員や卒業生の皆様のご尽力により多くの生徒が成長し、地域や社会で貢献してきました。時代の変化に伴い、取り巻く環境も変化していますが、今後もこの伝統と地域からの信頼を受け継ぎ、自己実現と知識・技術の習得に励み、未来のリーダーとして成長されることを期待しています。

東高への入学や卒業はゴールではなく、学び続ける旅の始まりです。新たな挑戦に対する勇気を持ち、知識と技術を積極的に磨いていくことで、才能が開花し、豊かな人生を築いていくことを祈っています。結びになりますが、本校の今後益々のご発展と関係者の皆様方の弥栄を祈念いたしまして、お祝いの言葉を申し上げます。



東高は誇るべき伝統

生徒会長 安 積 陽 斗

このたび、兵庫県立加古川東高校は百周年を迎えました。このような節目の、記念すべき年に在校生であることに喜びを感じ、生徒会長としてこの年を迎えられることを誇りに思います。

加古川東高校は「自治創造・明朗親和」の校訓のもと、体育祭や文化部発表会といった行事に加え、人権ホームルームや探究活動といった東高の特色ある様々な活動に主体的に取り組んでおり、愛、協調、平和を大切にする仲間思いの生徒たちにあふれています。

この東高の校風はそう簡単に創り上げられるものではありません。これは紛れもなく、百年前から先輩方が丁寧に紡いでくださった誇るべき「伝統」です。

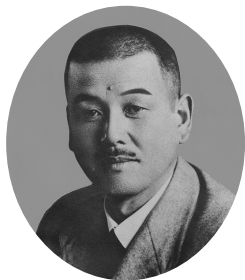
百年前から、大正、昭和、平成、令和と時代は移り変わり、それに伴って世界の様相は一変し、人々の価値観は様々なものが形成されては入れ替わり、混沌とした現代社会を私たちは生きています。そのような中に「伝統」と呼べるものはいくつあるでしょう。この加古川東高校という存在自体が現代における数少ない誇るべき「伝統」だと私は思います。

今を生きる私たちには百年間というあまりに長い歴史には実感を持って触れることはできませんが、日々の学校生活の中に数々の「伝統」を目の当たりにすることはできます。その「伝統」を紡ぐことが私たちの責務です。今後も「伝統」が紡がれ、百年後にも個性あふれる東高生の姿があることを願います。

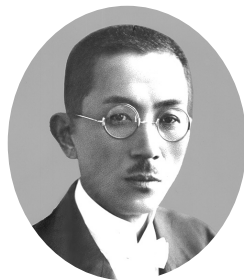
歴代校長



初代
瓜生 兵吉
大正 13 年～ 15 年



2代
藤井 慶乗
大正 15 年～昭和 4 年



3代
岩村 寅之助
昭和 5 年～ 9 年



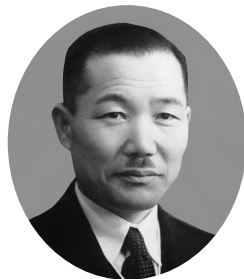
4代
中井 修一
昭和 9 年～ 15 年



5代
松本 従之
昭和 15 年～ 21 年



6代
青山 勇
昭和 21 年～ 22 年



7代
亀岡 寛治
昭和 22 年～ 26 年



8代
清水 敬治
昭和 26 年～ 31 年



9代
川本 猪三郎
昭和 31 年～ 33 年



10代
井内 喜久次
昭和 33 年～ 38 年



11代
柴垣 武夫
昭和 38 年～ 41 年



12代
西村 勇
昭和 41 年～ 43 年



13代
山本 教憲
昭和 43 年～ 46 年



14代
嶋田 幸雄
昭和 46 年～ 49 年



15代
岩崎 宗次郎
昭和 49 年～ 51 年



16代
藤本 晴保
昭和 51 年～ 58 年



17代
竹 一 干 城
昭和 58 年～ 61 年



18代
福島 浩之
昭和 61 年～平成元年



19代
田野 勝彦
平成元年～ 3 年



20代
磯 重 美
平成 3 年～ 6 年



21代
竹内 暉 雄
平成6年～7年



22代
衣川 清 馬
平成7年～9年



23代
岩 村 巖
平成9年～12年



24代
田 口 京 平
平成12年～15年



25代
中 野 直 行
平成15年



26代
田 寺 和 徳
平成15年～18年



27代
田 中 陽 三
平成18年～21年



28代
安 積 秀 幸
平成21年～23年



29代
常 陰 則 之
平成23年～26年



30代
安 本 直
平成26年～30年



31代
小 南 克 己
平成30年～平成31年



32代
清 瀬 欣 之
平成31年～令和3年



33代
志 摩 直 樹
令和3年～6年

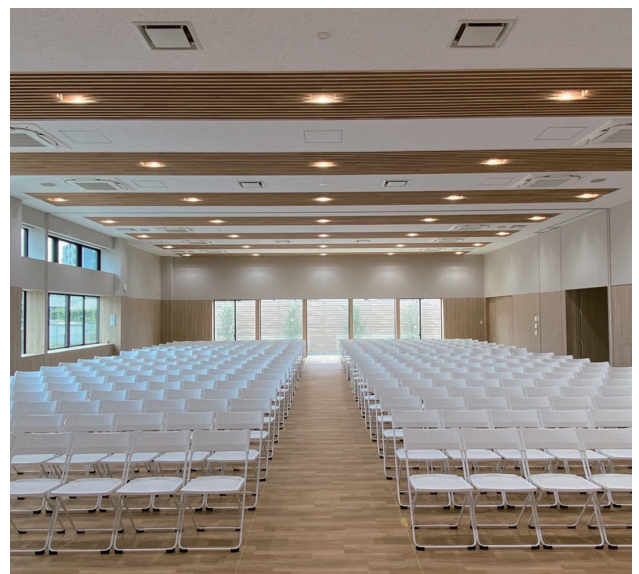


34代
新 谷 浩 一
令和6年～



100 周年記念事業

清流百周年記念館



建設：前川建設株式会社 前川容洋（高 12 回）

設計：株式会社 庄司圭介アトリエ一級建築士事務所 庄司圭介（高 38 回）

記念式典及び記念講演

日時 10月26日(土) 10時～

場所 SHOWA グループ市民会館大ホール

記念式典

開式の辞

国歌斉唱

学校長式辞

兵庫県教育長挨拶

来賓祝辞

来賓紹介

祝電披露

百周年記念事業実行委員会

実行委員長挨拶

PTA 会長挨拶

生徒代表「よろこびの言葉」

記念品・記念事業披露

校歌斉唱

閉式の辞

記念講演

「正解のない未来を切り拓く

人間的魅力」

講師 NHK アナウンサー

高瀬 耕造氏(高46回)

記念祝賀会

日時 10月26日(土) 13時半～

場所 加古川プラザホテル2階 鹿兎の間

開会の辞

百周年記念事業実行委員会

実行委員長挨拶

学校長挨拶

来賓紹介

鏡開き

乾杯

卒業生パフォーマンスステージ

リノレイア氏

校歌斉唱

閉会の辞

創立 100 周年特別企画①

私たち「かことん三（四）世代ファミリー」です！

在校生から遡り、三（四）世代続けて加古川東高校で学ばれたご家族のうち、3家族にインタビューをさせていただきました。

♠ 前田 恭祐（高 78 回） 父：前田 剛士（高 42 回） 祖母：前田 慧子（高 16 回）
曾祖父：梶原 正雄（中 2 回）（故）

前田家は、祖母の父、梶原正雄さん（故人）から四世代続く「かことんファミリー」です。祖母の慧子さんの頃は加古川中学校から約 50 名が進学していたため、中学時代と変わらず安心して学校生活が送れたそうです。邦楽部に所属し、文化祭では部員 13 名が色違いの着物にお揃いの帯を締め、体育館で演奏していたことが思い出深いそうです。また、学校で食事を作って生活をされていた原田先生（美術）のことがとても印象に残っているそうです。修学旅行では九州方面の高崎山などを訪れ、運動会では「デカンショ節」の替え歌で「加古川東高校音頭」を歌いながら踊ったりしたと、懐かしそうにお話ししてくださいました。当時の写真をたくさん見せていただきましたが、ここに掲載できないのがとても残念です。



父の剛士さんは、文化祭のクラス出し物で喫茶店や迷路をし、その頃は一般の方も来校できたので楽しかったそうです。結構やんちゃをしていたらしく、高 2 の修学旅行直前に不始末が発覚。でも、担任の小林先生（国語）の尽力と先生方の寛大な計らいにより修学旅行には参加できたそうで、とても感謝されていました。放課後は男友達と粟津神社の向かいにあった喫茶店でよくだべっていて、マスターからコーヒーチケットをサービスでもらったりしたそうです。

息子の恭祐さんは、本校に入学し自由な校風の中で勉強にも集中でき、仲間にも恵まれて楽しい学校生活を送れているようです。現在、生徒会役員として学校行事の運営に携わりながら、探究活動などにも意欲的に取り組んでいます。

♥ 岡本 和佳奈（高 78 回） 父：岡本 武久（高 45 回）
母：岡本 佳代（旧姓：原）（高 45 回） 祖母：原 雅子（旧姓：森）（高 11 回）

岡本家は、「昔から家族みんなで家や車の中で校歌を歌ってきた」というぐらい、「かことん愛」の強いファミリーです。「家族みんなが歌える歌の一つが東高の校歌だったから」だそうで、父の武久さんは岡村先生（音楽）が編曲された男性パートでハモリながら歌っているそうです。娘の和佳奈さんはそんな環境の中で育ち、小学 3 年生には東高への進学を意識したそうです。



祖母の雅子さんは中学の先生の勧めで受験。東高の場所もよく分からず、友人と下見をしたそうです。当時は運動場と校舎が東西逆で、入口付近はうっそうと木が茂り暗く感じたそうです。テスト後の楽しみは、友人とうどんを食べたり映画を観たりすること。当時は駅の付近に映画館が 3 つあったそうです。

父の武久さんは、高2の体育祭で先輩たちと一緒に黄団で優勝した経験がとても楽しかったため、高3で気合が入る色の黄団の団長となり、優勝はできなかったもののみんなとの団結に充実感を得たそうです。授業では、度々、前回と同じ問題を説明しようとする小寺沢先生（数学）に「もうそこはやりました」と言う人を、クラスの友人とじゃんけんをして決めていたのが今でも忘れられないとのことでした。

母の佳代さんには、白樺湖、黒部ダムなど信州方面への修学旅行で各クラスが1つのペンションに宿泊し、個性豊かで楽しい友人たちと過ごした思い出の写真を見せていただきました。体育祭では同じクラスだった武久さんと黄団で優勝した高2、紫団で優勝した高3と、楽しい思い出しかないそうです。印象に残っている先生は、いつも目玉のイラストを描きながら説明をする後藤先生（物理）や見た目によらず優しくかった常深先生（体育）など。放課後の思い出のお店を聞くと、ニッケパークタウンの「寿がきや」でラーメンやソフトクリームを、学校近くの「AKO」でお好み焼きを、ベルデモールの「プチトマト」でかつめしを食べたりと、勉強や行事以外でも友人と一緒に過ごす青春を満喫していたようです。

娘の和佳奈さんは、東高の常に高いレベルを目指せる環境や、何かに熱中している仲間の姿から得られる刺激、多様性を受け入れてくれる温かい雰囲気、個性的な仲間が集まっているが故の面白さなどに大満足し、毎日楽しかった学校の様子を家族に話しているそうです。今後も、両親から聞く思い出話に負けないくらい充実した楽しい学校生活を送りたいと考え、東高だからこそできる活動に積極的に参加し、日々妥協することなく努力を重ねています。

♣ 奥村 恵衣（高76回） 父：奥村 忠正（高38回） 祖父：奥村 修身（高6回）

祖父の修身さんは、教育熱心だった母親の勧めで東高に入学。当時は男女別のクラスで、周囲には東大・京大・阪大等を目指す人が多かったので、「勉強についていくのがしんどかった」そうです。楽しい思い出は阿蘇山など九州方面への修学旅行で、当時の仲間との交流は卒業後も続き、清流会の定例会（加古川・東京支部）には10年ほど前までは、よく参加されていたそうです。

父の忠正さんは、部活も勉強もしたかったので東高に入学。当時バスケットボールの強豪校だった東高には学区内の中学のキャプテン6人が集まりました。顧問の紺野先生の厳しいご指導を受けながら練習に励み、高3時には県大会でベスト4、近畿大会でベスト16を達成できたことは、高校時代の宝物。部活の後、寄り道して「ピープル」や「ドムドム」でハンバーガーや「翁介」でラーメンなどを食べたことも懐かしい思い出だそうです。自分たちの頃は「部活を引退してから受験勉強を始めて、だめなら浪人」という雰囲気があったけれど、今の東高生の多くは塾に通い1年生から受験に向けての準備をしているようで、大変そうだなと感じておられるそうです。当時の部活のメンバーとは今でもOB会での交流があり、また気の合った仲間達と「加古川マラソン」に参加したり、「ゴルフコンペ」を行ったりもしているそうです。

このようなご家庭の中で育った恵衣さんは、小学校低学年から自然と東高を目指すようになったとのこと。入学後も周りの仲間たちが努力する姿に励まされ、部活も勉強も頑張れたそうです。今春に第一志望の大阪大学人間科学部に合格され、家族一同でお喜びでした。心理学の勉強をしたいという希望を持って、現在は長距離通学で頑張っておられます。

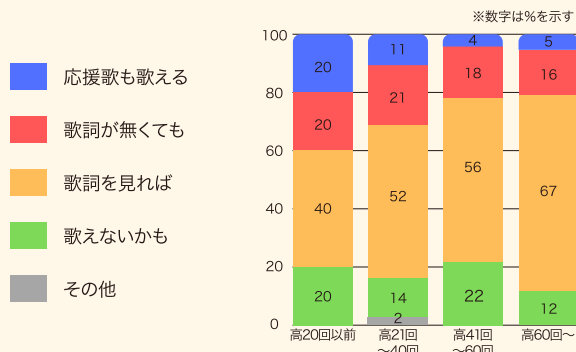


創立 100 周年特別企画②

教えて！あなたの青春時代！（同窓生アンケート集計結果）

※ 2024 年 5 月にメールマガジンにて回答フォームを送信いたしました。

校歌を今でも歌えますか？



Pick up

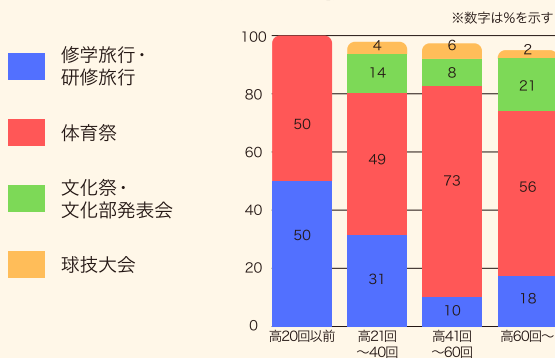
- 音楽の授業で覚えた男声のバスパートも歌える
- 合唱の自分のパートは歌えるが、メインのメロディは、あまり覚えていない
- 応援歌は歌えるが、校歌は歌えない

『歌えないかも』を選択した方も、DVDをご覧になり思い出してください。コロナ禍の影響もあり、近年は応援歌を歌う機会が少なくなっていたようですが、「100周年を機に応援歌を復活させよう！」と、2024年の体育祭では全校生で声高らかに応援歌を歌ったそうです。冊子には応援歌の音源が聴けるQRコードも掲載しております。(21 ページ)

◆週休2日制度の導入、前期・後期2学期制の導入などの節目に学校の教育課程見直しが図られ、それに伴い学校行事の内容や時期も世代により変化がみられるようです。

◆体育祭の思い出で多くの方がコメントされていた『 Cutterシャツの貸し借り 』（応援合戦のために女子が男子のCutterシャツを借りて、お菓子などを添えて返す風習がありました）は、全く記憶にない、という世代と、体育祭一番の思い出として真っ先に思い出す世代に二分されています。

思い出に残る学校行事は？



その他：新入生歓迎行事 人権討論会 林間学校 合唱大会 人民公社（遅刻の懲罰としての校内清掃）など

Pick up

体育祭

- 男子にCutterシャツを借りるのにドキドキ…。男子は誰か借りに来てくれるかソワソワ…。
- 「蛇の皮むき」シュールだけど楽しい演目！
- ダンスの練習を放課後に一生懸命頑張った。衣装を手作りした。
- 体育祭のダンス！学年越えてダンスを教えて、20年経っても毎年集まる仲よしメンバーになりました。

修学旅行

- 穂高連峰の美しさに感動し、社会人になってからも何度か訪れた。その度に修学旅行を思い出す。
- 貸し自転車借りて市内を回っていたら、先生に呼び止められ、こっぴどく叱られました。
- 兼六園の路地を、好きだった人と一緒に散策した事を、今でも鮮明に覚えています。
- バスが渋滞で動かず、バスから降りて走って借りに行った帝国ホテルのトイレが豪華だった。

文化祭・文化部発表会

- 軽音楽部のステージで舞台から見た景色は忘れられない。
- 体育祭・文化祭等の開催時期を変更するタイミングにあたり、文化祭を1年に2回実施した。
- 演劇部やESS部で演劇の発表をしたこと。
- 文化祭で先生に山本リンダの仮装をしていただいた事が思い出に残っています。

- ☆コロナ禍で制限がある中で学校の行事を様々な形で乗り越えて開催、運営したこと。
- ☆東高3年間の思い出の、良きも悪きも、全てが青春そのもの。

学校帰りの寄り道と言えバ？

高 20 回以前	翁助 うどん「かさよし」 喫茶店 お好み焼き たこ焼き 回転焼き 鶴林寺売店 下司書店
高 21 ～ 40 回	翁助 うどん「かさよし」 ダイエー・ニチイ・ニッケ ピープル 喫茶店 鶴林寺など公園 詳文館（書店）
高 41 ～ 60 回	カラオケ ゲームセンター ボウリング ピープル ドムドム スガキヤ そごう・ニッケ・ヤマトヤシキ フジヤ號 詳文館・新興書房（書店）
高 61 回以降	カラオケ コンビニ ロッテリア らーめん太郎 丸亀製麺 スターバックス タリーズ 山下商店（唐揚げ） 紀伊国屋書店 塾

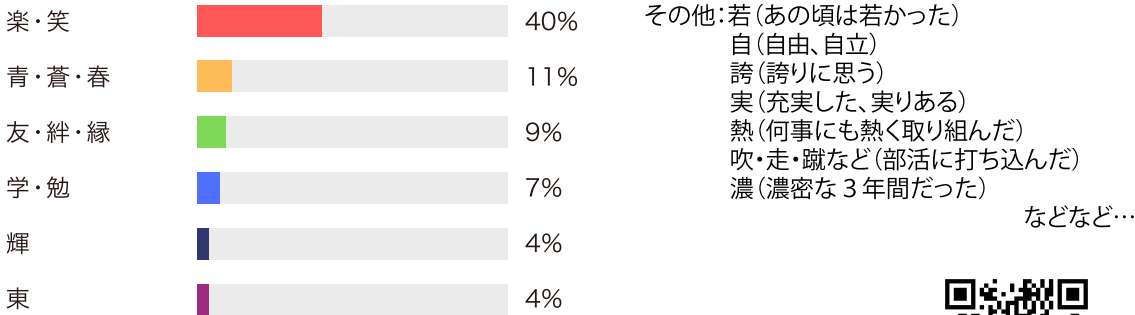
書店やラーメン店、ハンバーガーショップなどの店名に時代の変遷が表れていますね！



Pick up

- 20 回以前
- 回転焼きを 10 個、豚まん 30 個食べたり食べることが主でしたね。
 - ラーメンを食べに「翁介」によく通った。たまたま担任の先生が前に座られ、楽しく一緒に食べました。
- 21 ～ 40 回
- うどん 10 杯食べたら 1 年間無料でチャレンジし成功。そのうどん屋に時々食べに行った。
 - 不二家へグループで行き誕生日にポラロイド写真を撮ってもらった。
 - 徒歩通学圏内だったので、時としてわが家が寄り道の「たまり場」となっていた。
 - 他校は喫茶店に入るのは禁止されていたが、我々は通りを歩く先生と目が会えば、コーヒーを奢って貰った。それを聞いた他校の友人の目が点やった。
- 41 ～ 60 回
- 休みの日の部活帰りに遊びまくった。通学は徒歩圏内だったが遠出するために自転車で通学した。
 - ピープルは僕ら高校生の財布にも優しかった。
 - カラオケで浜崎あゆみを歌いたおし、プリクラ撮ってたの懐かしい。
- 61 回～
- 部活のメンバーで店内でスタバを飲むと多すぎて他のお客さんに迷惑がかかるので、外の芝生に移動して飲んでいました。
 - 加古川駅前の和菓子屋さん（高校生はみたらし団子割引、50 円とかだったかな）、やました商店のからあげは、電車通学も自転車勢も一緒に行けるのでしょっちゅう行っていた。

東高時代を感じ一文字で表すなら？



PW:20241026

アンケートにご協力くださったみなさま、ありがとうございました！
アンケート結果一覧は右のQRコードからご覧いただけます。

校歌・応援歌

旧制加古川中学校校歌（初期の校歌）



旧制加古川中学校校歌

（初期の校歌）

尾上 八郎 作

一、光れる潮よ霞める島よ

匂へる平野よ黒める松よ

いにしへゆかしきみかしほ播磨

国の秀しめても立つわが校舎

二、心をあわせてわが師のもとに

集ひて日毎に学ぶは何ぞ

全き人としとなり出でて

祖国と君とに尽さんそれぞ

三、浮きたる世上の慣を退け

一つの誠を確かに守り

加古の大川行く水絶えず

朝夕つとめむいざいざ友よ

旧制加古川中学校校歌



旧制加古川中学校校歌

矢作 条蔵 作詞

加藤 忠男 作曲

一、流れてつきぬ加古の川

常盤に澄める播磨灘

日本武尊の皇子生れし

遺跡をとどむる印南野の

地は吾が校の立つところ

つどう鵬雛八百人

二、自然の靈氣身にしめて

久遠の生命創造らんと

自治の大施ふりかざし

質実剛健ゆるぎなく

精進む吾が伴 大丈夫の

崇高く遼遠けきその希望

三、建國ここに三千年

宇内にきほう列強に

皇道宣布の大理想

正義の翼堂々と

大和雄叫び高らかに

共に果さんわが使命

それ清流に（応援歌）



それ清流に（応援歌）

清水 敬治 作詞
山本 禎一 作曲
浅原 弥平

一、それ清流に影宿し

野鳥を友にねりしわざ
ここに試練のとき至る

加古川東 勝て東

勝て勝て 加古川東高

加古川東 勝て東

二、ああ壮行の朝明けに

ほまれの旌旗色添えて
金鳥は映ゆる日岡山

（以下くり返し）

三、いま強豪とめぐり合い

闘魂たぎる印南野に

嵐は叫ぶ雲は飛ぶ

（以下くり返し）

四、ああ夕空にとどろける

陣鼓の響栄光は

やがて上らん刀田の月

（以下くり返し）

応 援 歌



応 援 歌

西島 三恵 作詞
本校音楽部 作曲

一、日丘の山に陽は映えて

つちかう力 幾十年

歴史は輝く 先輩の

汗に染めたる このわざを

今こそためさん 東高

フレフレフレフレフレ

加古川東

二、刀田のいらかに月さして

たがいに誓う 若人の

四季に鍛えし この闘志

火玉と燃やせ 一筋に

戦い抜かん 東高

フレフレフレフレフレ

加古川東

三、昔を今に 変わらざる

流れは清き 加古川の

水にはぐくむ 若人よ

気高く燃やせ この意気を

今こそ示さん 東高

フレフレフレフレフレ

加古川東

加古川東高等学校校歌



加古川東高等学校校歌

富田 碎花

作詞

須藤 五郎

作曲

一、いざ見よ

行く手輝く日の柱

久遠の光に瞳をひらき

自治創造の力一つに

希望の鐘高らかに

うち鳴らせ

光はつねに東より

ああ我等加古川東高校

二、いざ聞け

加古の水行く瀬々の音

絶えざる流れに思いを潜め

親しみとする心一つに

希望の鐘高らかに

うち鳴らせ

光はつねに東より

ああ我等加古川東高校

校章・校訓・校歌・応援歌について（再録）

校章

旧制加古川中学校の校章についての記録はなく、その由来は不明である。

加古川東高校の校章は、高2回生の堀田昌男氏の案を採用した。その間の事情について、50周年記念誌に龍見譲氏が次のように記している。

新制高等学校発足の時に中学校全生徒から校章を公募し、堀田昌男君の作品二種が選ばれたのである。（彼はその後、交流により加古川西高校に行った。そうして彼の作品が現在の加古川東高等学校の校章となり、一方が加古川西高等学校の校章となったのである。）彼は加古川東高等学校の校章について、「これは、久遠の過去から我が郷土をはぐくみ永遠の未来までつづく加古川の清き流れの上に立つ我が母校と、その母校の永遠の発展を希い、そこを巣立つ若人がわが故郷をこよなく愛し、そのもつ力をふるさとにそそぐ事を希う私の祈りです。」と語った。

校訓

旧制加古川中学校当時の校訓は「質実剛健」「自治創造」であった。もちろん男子だけの学校であり、おりから戦時色がだんだん濃くなりつつあった時代の風潮として、二つのうち「質実剛健」が実質的なスローガンとして重んじられていたらしい。次に50周年記念誌より高松一禧氏の文章を引用する。

「質実剛健」これは、男子だけの中学校当時にはふさわしいことばで、あらゆる学校行事の精神がこれで貫かれていたと思われる。すなわち服装においても制服の下に着る肌着は、夏も冬も前開きの詰襟木綿のシャツ1枚で、メリヤスシャツの重ね着も許されなかったし防寒具といったら軍手だけ、遠足、行軍の弁当は梅干し入りの大きなにぎりめしを、ノリかトロコロブで巻いたものを2個と指定、等々。これらによって不拔の忍耐力を養おうという趣旨からであろう。

この後、新制高校の時代となり、男女共学制となったのを機に、「明朗親和」が採択され、「自治創造・明朗親和」を生徒綱領に掲げることになり、今日に至っている。

校歌

旧制加古川中学校の校歌は二つあり、初期の「光れる潮よ霞める島よ」は歌人・書家・国文学者として高名な尾上柴舟（尾上八郎）氏の作詞、作曲者は不明。つづいて制定された「流れてつきぬ加古の川」は矢作条蔵氏作詞、加藤忠男氏作曲である。前の校歌を改め

た理由について、作詞者の矢作条蔵氏は「前のものは、あまりにも浪漫的に過ぎて弱々しいから」と語ったそうである。矢作氏は当時の国語漢文の教師、また加藤氏は数学の教師だが、音楽に造詣が深く吹奏楽の顧問でもあった。歌詞の内容が軍国調であるのは、当時の時代状況を反映したものである。

加古川東高等学校の校歌「いざ見よ、行く手輝く日の柱」（富田碎花氏作詩、須藤五郎氏作曲）は、昭和24年秋、母校創立25周年記念式典当日に発表されているが、次にその間の事情について、50周年記念誌より高松一禧氏の文章を引用する。

（詩は）生徒のものを何とか生かそうと思ったが、取り上げるものはなかった。高橋先生（本校職員）の作品に「光はつねに東より」の一行だけを付け加えることにした。高橋きさの先生の作詩としてもらってもけっこうだからということであった。

次に作曲であるが、富田先生の内意を伺ってみたところその場で須藤五郎先生を推せんして下さったので翌10月6日（昭和24年）大阪府豊中市蛍ヶ池の先生のお宅を訪問、お願い申し上げたところ、「いいですね、すばらしい曲ができそうです。出来上がりを楽しみにはりきって作曲してみましょう。」と快く承諾して下さい胸の重荷を下ろしたわけでした。

80周年では、記録媒体としてCD-ROMを作成することになったため、校歌、応援歌等も音の形で残すことが可能となった。

応援歌

昭和29年7月、加古川東高等学校応援歌が作られ文化祭で発表された。

第1応援歌「それ清流に」は当時の校長であった清水敬治氏作詩、共に中学3回卒業生の山本禎一、浅原弥平、両氏の共同作曲である。また第2応援歌「日丘の山に陽は映えて」は当時生徒であった西島三恵氏の作詩、土井政子教諭を中心とする本校音楽部の作曲である。



【編集後記】

旧制加古川中学校の時代から続く 100 年間の伝統と歴史をまとめるという一大事業にあたり、手に取って隅々まで読んでいただける、楽しくご覧いただけるものができればと委員会で検討を重ねました。

その結果、100 年間の詳細な記録はデジタルコンテンツとしてデータ化してホームページに掲載、記念誌の紙面には最小限の情報とインタビューやアンケート企画などを掲載、見やすさを重視しました。そして 100 年間の歴史を振り返る映像や加古川東高等学校の現在を伝える映像を DVD に収めました。

DVD 制作にあたっては、単なる資料映像ではなく、100 年の歴史を生徒さんたちと共に振り返る構成としました。学校の先生方、PTA、清流会、そして現役の生徒さん皆で協力して制作することで、加古川東高等学校に関わる全員で 100 周年を祝うものにしたいと考えたためです。ナレーションの原稿考案から出演まで、現役の生徒さんたちが、今も昔も変わらない「東高生らしい主体性」をもって関わってくれたことで、過去と未来を繋ぐ『いま』を記録として残すことができたのではないのでしょうか。

この記念誌を手にとって下さった皆さまに、懐かしく楽しく 100 年の歴史を振り返っていただけたら幸いです。

様々なアドバイスを下さった木下ブンセイ出版印刷の木下明子さん、そして制作に関わってくださった皆さま、ありがとうございました。

より詳しい加古川東高校の歴史は学校の HP「100 周年記念ページ」をご覧ください。



◆編集委員◆

委員長	島崎純子(清流会)		
委員	岩坂純一郎	北野砂恵子	丸山浩之(清流会)
	菅原守弘	瀧口あき	森本佳子(PTA)
	鵜飼義人	河岡佳子	川本恭子
	恋野善樹	五ノ井幹也	富田優子
	松下博昭	八木啓介(教員)	
編集協力	木下明子		
表紙デザイン	立石友香(高43回)	題字	中山順子(高69回中山美咲お母様)

QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

発行日 令和6年10月26日

発行 兵庫県立加古川東高等学校 創立100周年記念事業実行委員会

〒675-0039 加古川市加古川町栗津232-2

TEL 079-424-2726 FAX 079-424-5777

URL <http://www.hyogo-c.ed.jp/~kakohigashi-hs/>

編集 創立100周年記念事業実行委員会 記念誌部会

印刷・製本 木下ブンセイ出版印刷

清流

世以彰

